オハラ家の女性三人との比較にみるスカーレット・オハラの性格

二階堂　陽　子

私は一年半にわたるゼミにおいて『風と共に去りぬ』を読み、「オハラ家の他の女性三人との比較にみる、スカーレット・オハラの性格」について考えてみた。まず、スカーレットを取りまく家族ータラーの主な構成を紹介しよう。オハラ家は父ジェラルド、母エレン、上の妹スエレンに下の妹キャリーン、そして彼女の五人である。ここではジェラルドを除く四人について話を進める。

エレンはジェラルド・オハラの妻であり、この姉妹の母だ。サヴァナの貴族出身のいわゆるエリートである。スカーレットにとっては常に憧れの存在である。また、オハラ家全体にとっても、彼女は影の実力者である。常に夫を立てることを忘れず、上品で慈悲深い。自分を犠牲にしても他の人につくそうという精神が強い。これだけだと、温厚で穏やかなだけで、オハラ家の影の実力者という印象はうすくなってしまいがちなのだが、オハラ家で常に冷静に周囲の状況を見て、下の者に細かい指示を与えているのは常に彼女であるし、またジェラルドとの結婚に至るまでの経過もあわせて推察してみると、このエレンという女性も激しい性格を秘めているようだ。

次にスエレンをみてみる。スエレンはオハラ家の次女であるが、いつもスカーレットに対抗意識を抱いており、実際二人はあまり仲が良くなかった。しかし、合理的で自己中心的という点で二人はよく似ている。似ているからこそ、スエレンはスカーレットに対してライバル視していたのではないかと思った。

三女のキャリーンは、この四人のなかで最もロマンチストであり、現実逃避型でないかと思われる。スカーレットは現実主義であるから共通点を見い出せないようにも感じるが、それは違うと思う。スカーレットがアシュレイに対して抱いていたのはまさに恋する乙女のロマンではないだろうか。だから本当はスカーレットも結構ロマンチストではないかと思うのだ。ただ彼女の場合、お金などの現実的な問題がからんでくるとどうしてもそちらの方に興味がいってしまい、アシュレイへの恋心はどこかにいってしまうだけなのである。

最後はスカーレットである。活発で単純、神様は都合の良い時しか信じないし、いつも自分が一番偉いと思っているというポジティブ志向を絵にかいたような人物だ。しかも素晴らしい美貌を持ちあわせているのだから、まわりの人々はいつもやきもきさせられるわけだ。しかしここまでくると、スカーレットの性格は微妙に他の三人とリンクしていることに気付く。つまり、他の三人がいてこそスカーレットの性格がこのように形成された訳だ。『風と共に去りぬ』と聞くと、スカーレットとレット・バトラーだけが突飛な人だというイメージがあるがそうではなく、実に個性豊かな面々によってアメリカ南部の歴史の一部を色どっていたのだと思った。このように、ゼミを通して普段読む時には見落してしまうような点を見つけ読み深めたことは、これからの読書生活にもきっと役に立つだろうと感じた。一年半にわたり『風と共に去りぬ』を読んで、自分のためにとてもよかったと思う。

（指導教員　中村　敦志）